

図書だより

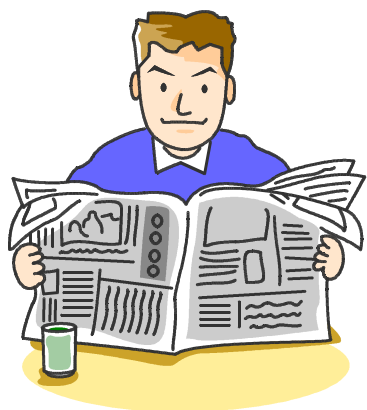
5月

田原本町立北中学校
令和5年5月
第2号

課題図書が入荷しました！

「全国学校図書館協議会」というところで、学校における読書指導の一環として、休暇期間中などを利用して読むことを推奨した図書を、毎年本の専門家たちが決めています。それを「課題図書」と言います。この時期になると毎年本屋さんに課題図書が並びますが、本校の図書室にも入荷しましたのでご紹介します。本の専門家には選ばれるだけあって、どれも良書ばかりですので、ぜひ読んでみてください。小学校低学年、中学年、高学年、中学校、高校と部門が分かれています。中学校、高校の課題図書を紹介します。

新聞が入りました！



図書室に新聞が入りました！「毎日新聞」「読売新聞」「奈良新聞」の三紙が、毎日入ります。最近では新聞をとっていないという家庭も多いようです。インターネットなどで様々な情報が入ってくる世の中ですが、ぜひ新聞を読んでみてください。新聞には国内のことだけでなく、世界中の出来事や、文化的な内容、本の紹介や、料理のレシピなど、様々な情報が載っています。しかも、三紙も一度に読めることなんて、家庭ではなかなかできないと思います。同じ事柄について、三紙がどう報じているのかを読み比べてみるのも面白いと思います。これまであまり新聞に興味がなかった人も、ぜひ新聞ライフを始めてみてください。

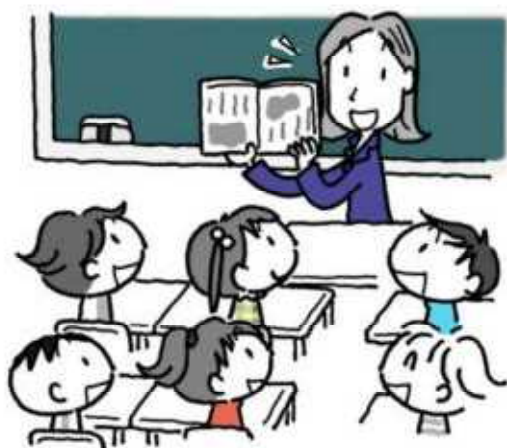
ブックトークの日程が決まりました！

今年度もブックトークを実施する予定であることをお伝えしていましたが、日程が決定しましたのでお知らせします。

1年生・・・6月2日(金)

2年生・・・6月7日(水)

1年生は「読書の楽しみ」、2年生は「リーダーとは・働くことの意義」というテーマに沿って、町立図書館の司書さんに本を紹介してもらいます。毎年、生徒の皆さんから好評なので、今年度もお願いすることになりました。みなさん、楽しみにしておいてください♪



「アップステージ：シャイなわたしが舞台に立つまで」
／ダイアナ・ハーモン・アシャー(評論社)

目立つことが大きらいなシーラが、学校ミュージカルの舞台に?! 幕が上がるまでの日々を描く、ユーモアいっぱいの物語。

中学生たちが学校ミュージカルを一からつくりあげていく様子を描いた楽しい物語。恋あり、悩みあり、失敗あり、思わず吹き出してしまう場面も！ 作中の「ザ・ミュージック・マン」は現在も上演されている作品です。



「スクラッチ」／歌代朔(あかね書房)

コロナ禍で何もかもが中止、延期、規模縮小。今までの日常が奪われ、閉塞感の中で過ごした日々。中学生の4人が、もがきながら未来の自分へと手を伸ばす姿、揺れ動く繊細な心の変化に寄り添ってみてください。



「人がつくった川・荒川」／長谷川敦(旬報社)

首都圏を貫く荒川は、たび重なる洪水に見舞われた「荒ぶる川」。これまで人の手で何度もつくり変えられてきました。同じような人工の川は日本各地にあります。温暖化による大水害も懸念される今、私たちは川とどう付き合うべきか。

水害からいのちを守り、暮らしを豊かにする江戸をつくったのは家康じゃなく荒川だった？ 地球温暖化で川が大ピンチ!? 面白くてススイ読める、川と人をめぐるノンフィクション。

高校の部もあわせて紹介します。もうすでに読んだという人もいます。中学生でも十分理解できる内容だと思しますので、興味があれば読んでみてください。



「ラブカは静かに弓を持つ」 / 安壇美緒 (集英社)
 少年時代に心に傷を負い、深海魚の一種・ラブカのようにひっそり生きてきた孤独な青年・橘が、上司から音楽教室への潜入調査を命じられる。身分を偽り通い始めた教室で師や仲間と出会い、チェロを奏でる歓びに目覚めるが――。



「タガヤセ! 日本」 / 白石優生 (河出書房新社)
 農業ってこんなに面白い! 若き官僚YouTuberとして多くのメディアにも登場する「農水省の白石さん」が、最新の農業から、実はスゴい日本の農作物のこと、さらには日本の農業の未来までを語る1冊。



「昆虫の惑星」 / アンヌ・スヴェルトルップ=ティーゲソン (辰巳出版)
 虫が苦手という人は多いが、虫の世話になっていない人は地球に1人もいない。あなたの知らないところで黙々と仕事をしている昆虫たち――。ノルウェーの女性昆虫学者が、奇妙で美しく風変わりな虫たちの世界へと誘う。

小学校高学年の部

「ふたりのえびす」「5番レーン」「魔女だったかもしれないわたし」「中村哲物語:大地をうるおし平和につくした医師」も購入しています。こちらもあわせて読んでみてください!

松崎先生のおすすめ本

松崎先生が、皆さんにぜひ読んでほしいと選んでくださった本です。絵本が多いので読みやすいと思います。絵本といっても、とても考えさせられる本ばかりです。ぜひ読んで人権感覚を研ぎ澄ませ、感想を松崎先生に伝えてください。



「島ひきおに」 / 山下明生 (偕成社)
 人間と暮らしたいと住みかの島をひっぱって鬼が村へやってきましたが、こわがって誰も遊びません。鬼は再び島をひいて歩きます。



「おこる」 / 中川ひろたか (金の星社)
 まいにちおこられてばかりのぼく。なんで、ぼくはおこられるんだろう?なんで、ひとはおこるんだろう?ドキュメンタリーTV番組「情熱大陸中川ひろたか編」から生まれた絵本。



「しろいうさぎとくろいうさぎ」 / ウィリアムズ (複音館書店)
 しろいうさぎとくろいうさぎは、毎日いっしょに遊んでいました。でも、くろいうさぎはときおり悲しそうな顔で考えこんでいます。心配になったしろいうさぎがたずねると「ぼく、ねがいごとをしているんだよ」と、くろいうさぎはこたえます。くろいうさぎが願っていたのは、しろいうさぎといつまでも一緒にられることでした。それを知ったしろいうさぎはどうしたでしょうか?結婚式の贈り物に選ばれることも多い、優しく柔らかな2ひきのうさぎの物語です。

4月の多読賞!

順位	1年生	冊数	順位	2年生	冊数	順位	3年生	冊数
1		11	1		4	1		4
2		6	2		3			
3		4			3			
		4			3			
		4						
6		3						

この時期は毎年、1年生が1番たくさん借りてくれます。中間テストも終わったことだし、たくさん読んでくださいね!